

## 平成21年度県立常北高等学校自己評価表

目指す学校像	創立以来46年の歴史と伝統に基づき、校訓の「至誠、勤勉、協和」の精神を徹底させ、心身ともに調和のとれた人間形成を図るとともに、地域社会に貢献できる学校づくりを目指す。				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
〈成果〉 ・学習指導の面では、学力向上スーパープランの完成年度として数値目標の達成が図れた。 ・生徒指導の面では、校内外巡視の実施により、生徒指導事故が大幅に減少した。全体として落ち着いた学校生活を送れている。 ・進路指導の面では、10月以降の景気停滞の中で、進路決定率87.5%であった。 〈課題〉 ・学習指導では高校生基礎学力向上サポートプランを活用し、さらに生徒の理解度や達成感を高める。 ・1年生の1学期部活動により、部活動の活性化を図る。男子生徒のズボンの腰穿きを指導する。 ・インターンシップ全員実施を行い、早期の進路意識を涵養する。 ・学習・特別活動・部活動等あらゆる面で生徒の積極性を伸ばす工夫が必要である。	1	基礎学力の向上と学習意欲の喚起	① 綿密な教材研究や少人数編成授業等を通して、わかりやすい授業の展開に努める。 ② シラバスを活用して、学習意欲を喚起する。 ③ 県の高校生基礎学力向上サポートプランに基づき、基礎学力の定着を図る。	C	
	2	基本的生活習慣の確立	④ 頭髪・服装指導や遅刻防止等の徹底により、基本的生活習慣の確立を図る。 ⑤ 登下校時の挨拶、授業の始まりや終わりの挨拶、校内での挨拶を徹底する。 ⑥ 年3回の計画的な生徒面談や家庭訪問等により、生徒理解に努める。	C	
	3	希望する進路の実現	⑦ 3年間を見通した計画的な進路指導を実施する。 ⑧ 職場見学、キャンパス見学、2年次における生徒全員のインターンシップ等の体験的な活動を通して、進路意識の高揚を図る。 ⑨ 資格取得の奨励を通して、より確かな進路実現を図る。	C	
	4	特別活動の活性化	⑩ 生徒の部活動等への積極的な参加を促し、放課後の充実した過ごし方の指導に努める。 ⑪ 学校行事、生徒会活動やホームルーム活動を通して、生徒の積極性を育成する。	C	
	5	地域から信頼される学校づくりの推進	⑫ ホームページや広報紙等の充実を図り、保護者・地域への積極的な情報の提供に努める。 ⑬ 学校評議員や地域の中学校等の意見を取り入れ、地域と連携した教育を推進する。 ⑭ 計画的に外部への公開授業を実施し、本校に対する理解の推進を図る。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度への主な課題
教科指導	基礎学力の向上と学習意欲の喚起	綿密な教材研究や少人数編成授業、シラバスの活用等により、わかりやすい授業を展開することで生徒の学習意欲を喚起する。 ①②③		C	授業力向上のための校内研修の推進
国語	基礎的な国語力の習得	基礎的な漢字・語彙力を反復練習し身に付け、自分のものとして応用できる力を育成する。 ①②③		B	個に応じた指導により、進路につながる学力の定着を図ることが必要。
	読書習慣の習得	読書する楽しみを身に付け、自らの読書体験を豊かにし、様々なものの見方、感じ方を知り豊かな人生を歩める基礎を育成する。 ①③		B	
	作文の基礎的な表記の習得	基礎的な文章表現の知識を学び、自分の考えや意見を正しく表現できる力を育成する。 ①③		B	
	地理・歴史についての基	地図帳を地歴、公民のどの授業でも携行させて世界や日本の地理に親しませ、歴史や現代社			・生徒の学習意欲を

教 科	地歴・公民	礎的事項の理解の徹底	会の基礎的事項の理解を深め定着をはかる。①③	C	C	喚起するための指導法の工夫が必要。かつ、継続的こまめな学習指導の実践。
		現代社会の諸問題への興味・関心の喚起・解決についての考察	現代社会の基礎的な事項を学ぶとともに新聞を読んだり時事的問題についてのビデオ等を視聴したりすることで現代の諸問題への関心を持たせ、意見・感想等を書くことで、主体的な解決の方法について考えさせる。①②③	C		
	数学	基礎計算力の定着	基礎計算問題を繰り返し行わせ、計算力の定着をはかる。③	C		・計算力の定着のため、引き続き計算問題演習を行う。
		数学への興味関心の喚起	身の回りの数学的な話題などを交えた授業展開を行い、数学を身近に感じ、興味関心を持たせる。①②	B	C	
	理科	観察・実験の充実	各科目ともに、単位数の2倍の回数の観察・実験を行い、基本的操作を身に付けさせる。また、実験の事前・事後指導の時間を確保し、内容の定着を図る。①	B	B	・さらなる基本の徹底 ・発展的内容も取り入れた、指導法の探究
		基本的内容の充実	基本的知識が不足している生徒が多いので、まず中学校の内容などの基本を徹底し、高校の内容の理解を深めさせる。①	B		
		生徒の興味・関心を引き出す授業の展開	最新の科学技術に関する情報を紹介することにより、生徒の科学に対する興味・関心を引き出す。また、原子力関連施設やJ-PARC、KEKなどの施設が茨城県にあることなどに触れ、最新の科学技術が身近なものであると感じさせる。①	B		
	保健体育	健康の保持増進と危険回避能力育成	健康や安全の課題に直面したときに、科学的な思考と正しい判断に基づく意志決定や行動選択を行い、適切に実践できるような資質や能力を養う。①	C	B	・けがや病気（感染症）の予防に対する実践力の育成。 ・基礎体力の向上を図る。
		体力の向上	自己の体力を知り、考えながら補強運動を実践することができるようにする。①	B		
		応急手当と心肺蘇生法の習得	RICE等の様々な応急手当の方法を身につける。心肺蘇生法の実習を行い、自ら進んで実行できる態度を養う。（AEDを含む）①	A		
	音楽	音楽を愛好する心情の育成	音楽に取り組むために最低限必要な読譜力を向上させ、より積極的に音楽に取り組む態度を育成する。③	B	C	・中学校までの学習内容との連携を図った指導を行う。 ・さらなる読譜力の向上を図る。 ・豊かな言語活動を取り入れる。
			十分な題材研究を行い、本校生徒の実情に即した題材に取り組ませる。②③	B		
		感性の向上、創造的な表現と鑑賞の能力の伸長	様々な楽器の奏法や作曲法・発声法を学んだり、音色や楽曲の美しさを感じ取らせることで創造的な表現能力を伸ばす。③	C		
			楽曲をただ聞くだけではなく、作曲者の人生や作品の時代的背景を学び、総合的に鑑賞を行い、創造的な鑑賞の能力を伸ばす。③	D		
	英語	基本的な語彙の定着	基本的な単語と熟語の書き取り練習を継続的に行い、定着を図る。①③	C	B	・生徒の学習意欲を喚起し、それを維持・継続させる指導法の研究
		基礎的な文法事項の理解	少人数習熟度別授業の展開により、基礎的な文法事項の一層の理解と定着を目指す。①②③	B		
		外国への興味関心の喚起	サイパンのカグマン高校との国際交流を通じ、外国への興味・関心を深め、コミュニケーション能力の向上を図る。①	B		
	家庭	基礎的・基本的な知識・技術の習得	日常生活に必要な基礎的な知識を習得するとともに、実験・実習を通して日常生活に必要な基礎的・基本的技術を生身に付けさせる。①③	C	C	・実験・実習を更に取り入れ、実生活に即した技術の習得を目指す。
		検定の実施による知識・技術の向上	食物技術検定4級の受検を通して、基礎的な知識・技術を習得させる。また、フードデザイン選択者については、更なる知識・技術の向上を目指し上級を受検し合格を目指す。①③⑨	B		
	情報	情報を活用する実践力の育成	マルチメディアやインターネットを活用した実践力と、情報の収集・発信を通しての問題解決力の向上を図る指導を展開する。①	C	C	・さらなる実践力の向上を図る。 ・情報モラルのさらなる向上を図る。
情報社会における望ましい態度の育成		著作権や情報モラル等の情報倫理を生身に付ける指導を展開する。①	C			
商業	検定試験による技術習得	ワープロ実務検定試験、電卓実務検定試験を通し、技術を習得させることを目指す。①	B	B	・生徒の学習意欲を喚起し、個に応じた	
	ソフトウェア利用の技術	ワープロソフト、表計算ソフト、画像編集ソフトの利用方法を学習する。身近な事柄を文章	B			

	の習得	化、作表できる力を身に付ける。	①②	B	指導を目指す。	
	ビジネスへの関心の喚起	新聞やインターネットの記事を読んだり、ビデオ等を視聴することにより、ビジネスへの関心を高める。	①	C		
総合的な学習の時間	進路意識の高揚と規範意識の育成	外部講師による進路ガイダンスや面接指導を積極的に採り入れて、生徒の進路希望実現に向けた方策を計画的に実施する。また、社会規範の基となるマナーを学び、健全に社会生活を送る自覚を育てる。	④⑥⑦	A	A	年間を通して十分に外部講師を活用し、目標を達成することができた。
道徳	マナーの修得と自他を大切に作る心の育成	自他の生命や人権を尊重し、思いやりの精神を持たせる。社会の一員としての自覚を持たせ、公共心を育む。公開授業を年2回実施する。夢を育み、自己実現に向けて努力する心を養う。外部講師を活用する。	⑥⑭⑮	B C B	B	・進路意識を高揚させ、夢を育む下地作りが急務である。
教務 (含渉外)	授業時間の確保	授業実施時間数に常に留意するとともに、特編時間割の運用を工夫する。	①②③	B	B	・成績処理作業の円滑化を進める。 ・学校広報活動への積極的な取組みを図る。 ・新教育課程に向けて早期の準備を図る。
	公開授業の実施	学校内外での公開授業を計画的に行うことによって、地域公開および教員研修の機会を増やす。	①⑫⑬⑭	B		
	学年や各部との連携	行事の円滑な運営を目指し、学年・各部・各教科との連携に絶えず気を配る。	①⑪	B		
	成績処理作業の安定	内規や手順の見直しを進め、精緻な成績処理作業に努める。	①	B		
	ネットワークの管理	ネットワークセキュリティの強化に努め、パソコンの管理・運用・整備に努める。	①⑫	C		
	P T A 活動の活性化	P T A 行事への参加率を高めるための環境を整える。役員を中心に緊密な連絡を取り、企画・準備の推進を図る。	⑫⑬	B		
生徒指導 (含特別活動)	基本的生活習慣の育成	早朝校内外立哨指導や校内巡視等における挨拶の励行運動を行う。	④⑤⑬	B	B	・部活動の定着を図る。 ・容姿指導の徹底を図るため、教員側の意識共有をして、共通行動がとれるようにする。
		H R ・生徒面談・集会を通し、時間や規則を守ることにに対する意識を高揚させる。(遅刻・欠席の防止)	④⑤⑥	B		
	交通安全教育の推進	自転車・バイク安全点検の徹底。交通安全講話の実施。校外立哨指導の充実。	⑤⑬	A		
	部活動の充実	部加入率の増加を図る(1年生1学期間の全員部加入の実施)。	⑩⑪	B		
	学校行事の円滑な運営	ツールド常北・クラスマッチ・体育祭の円滑な運営と充実に努める。	⑤⑪	A		
進路指導	進路意識の喚起	進路講演会・面接練習・マナー講習等を通して自分の将来について自ら選択し準備する力を育成する。	⑦⑧⑨	A	B	・1年次よりの早期の進路意識の高揚が必要。 ・就職難の社会に対応できる基礎学力の向上や定着が課題。
	基礎力テストの充実	各種検定試験、就職、進学試験の合格をめざし、基礎的な力を習得する。	⑦⑨	C		
	面接指導の徹底	進路決定に向けて自己表現の仕方、マナーを習得する。	⑦	B		
	インターンシップの充実	2年次において自分の進路選択のためのインターンシップを体験し、自分の適性・興味を知る。	⑧	B		
保健厚生	保健管理・保健指導の徹底	健康診断の事後措置や日々の保健指導を通じ、健康についての自己管理の意識を高める。	④	C	B	・健康についての自己管理意識の高揚が必要。
		外部講師による保健指導を行うことにより、性教育、薬物乱用防止教育の充実を図る。	①	B		
		保健委員会の積極的な活動についての指導・助言を行う。	⑪	B		
	健康で安全な学校環境の整備・美化	ゴミの分別等について啓発活動を行い、意識の高揚を図るとともに、環境美化に努める。	⑪	B		
		施設設備の安全点検を行い、安全管理に努めるとともに、安全についての意識を高める。	⑬	B		
防災計画の立案と防災教育の推進	美化委員会の積極的な活動についての指導・助言を行う。	⑪	B			
奨学生募集についての積	防災組織を編成し防災講話・避難訓練等を実施することにより、非常時に適切な行動がとれるようにする。	⑬	B			
		募集について随時担任と連絡を取り合い、多くの生徒が活用できるよう積極的に呼びかけ				

	極的な広報活動	る。	⑫	B		
第3学年	基本的生活習慣の確立	遅刻カードの利用により、遅刻防止や時間厳守の態度を身に付けさせる。早朝の立哨指導を行い、挨拶の励行ときちんとした服装の着用を促す。HRや授業、生徒指導部とうまく連携しながら、指導の徹底を図る。	④⑤⑥	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部生徒の遅刻防止のための方策検討</li> <li>不況のため就職が非常に厳しい状態にあるのでそれに対する方策</li> </ul>
	基礎学力の向上と進路指導の徹底	HRや面談、総合学習の時間等を有効に利用するとともに、外部講師による進路ガイダンスや面接指導を積極的に採り入れて、生徒の進路希望実現に向けた方策を計画的に実施する。少人数授業や課外、毎日の漢字テスト等で基礎学力向上を図り、進路指導部と連携を深めながら、全員が進路決定できるように指導する。	①⑦⑧⑨	B		
	リーダーシップの育成	最上級生として学校を背負っていることを常に自覚させ、毎日の生活や学校行事、部活動を通じて社会生活でも活用できるリーダーシップを育む。	⑩⑪	B		
第2学年	基本的生活習慣の確立	遅刻カードの利用により、遅刻防止や時間厳守の態度を身に付けさせる。早朝の立哨指導を行い、挨拶の励行ときちんとした服装の着用を促す。HRや授業、生徒指導部をうまく連携しながら、指導の徹底を図る。	④⑤⑥	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣を確立させるために、継続的な指導が必要。</li> <li>進路実現に向けて更なる基礎学力の向上と、進路意識の喚起が必要。</li> </ul>
	基礎学力の向上	朝のSHR時に漢字の練習やテスト等を実施することにより、基礎学力の向上を図る。また、授業を大切にす指導を行う。	④⑨	B		
	進路意識の喚起	職場見学やキャンパス見学、インターンシップを行うことにより、生徒の進路意識の向上を図る。	⑦⑧	B		
	豊かな心の育成	修学旅行および事前指導を通して、平和の尊さを伝える。マナー講習会を実施し、他人に対する思いやりの心を礼の形で表現する事を学ばせる。LHRの時間を有効利用し、友情や自他を大切にする心を育む。	④⑥⑭	C		
第1学年	基本的生活習慣の確立	遅刻カードの利用により、遅刻防止や時間厳守の態度を身に付けさせる。早朝の立哨指導を行い、挨拶の励行ときちんとした服装の着用を促す。	④⑤⑥	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣の確立のため遅刻、早退の防止、挨拶の励行等、日々地道で継続的な指導が必要。</li> <li>生徒の学習意欲を喚起するための指導法の研究、こまめな学習指導の実践必要</li> </ul>
	基礎学力の向上	基礎力試験を実施し、試験の内容を定着させるため合格点が取れるまで継続した指導を行い、基礎学力の定着・向上を目指し、かつ、学習習慣を身に付けさせる。また、授業を大切にす指導を行う。	①⑨	C		
	進路意識の喚起	担任による面談、進路ガイダンスや進路情報伝達を適切に実施しながら、また、道徳の授業と連動させながら生徒の進路意識の向上を図る。	⑦⑨	D		
	豊かな心の育成	マナー講習会を実施し、他人に対する思いやりの心を礼の形で表現する事を学ばせる。LHRや道徳の時間を有効利用し、友情や自他を大切にする心を育む。	④⑥⑭	C		

※評価基準： A＝大変良く達成できた。 B＝よく達成できた。 C＝普通である。 D＝やや不十分 E＝不十分